

提案事項

研究組織の変更・見直しをしてはどうか。

1 研究組織見直しの理由

(1) 班別活動が効率的に機能していないのではないか。

平成18年度までは、校内研究を行う場合に、次のような流れで研究を進めてきた。

推進委員会 → 班別研修 → 学年別研修 → 指導案検討 → 研究授業

しかし、班活動の内容や時期に偏りがあり、時間を設定しても班活動が効果的に機能しないことがあった。(時期によって、理論研究班は仕事があるが、授業研究班は仕事がないなどの意味)そこで、全体での共通理解を深め、効果的に校内研究を進めるために、班別活動を省き、推進委員会から直接学年別研修へと提案が下りる形を採用してはどうかと考える。これまで班別活動で扱ってきた内容は、推進委員会で形を示し、作業は学年部で行う。こうすることで、全職員が研究の全体を把握しやすくなると考える。

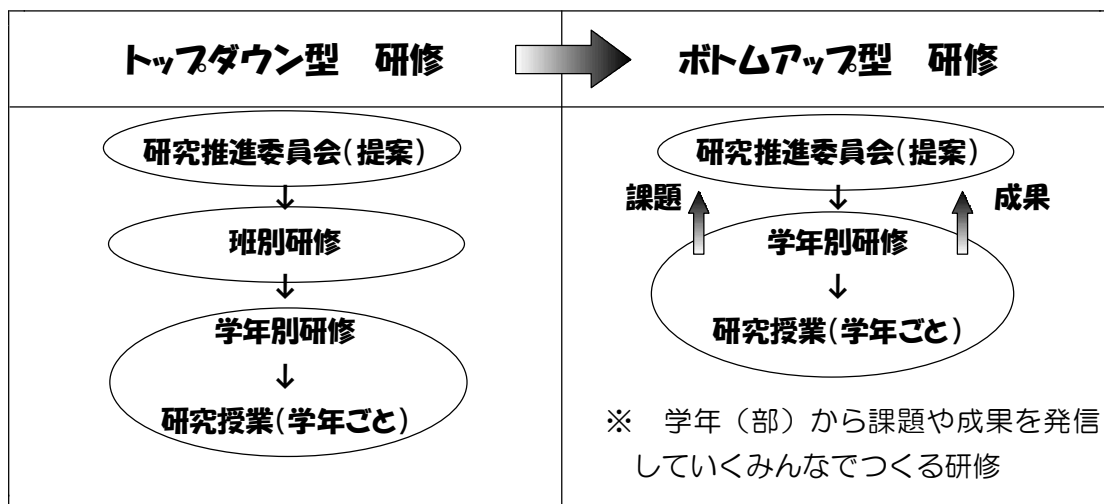
(2) 班活動の内容を学年で分担することによって、学年での共通理解が深まる。

これまでの研究から、各班での取り組みが明らかになってきた。それぞれの仕事内容は、学年におろしても、それぞれ分担して取り組むことができると考える。また、学年で取り組みを進めることによって、連絡調整が図りやすい。

(3) 学年で班の割り振りをして班活動を行い、それを学年に持ち帰る作業は手間と時間がかかる。

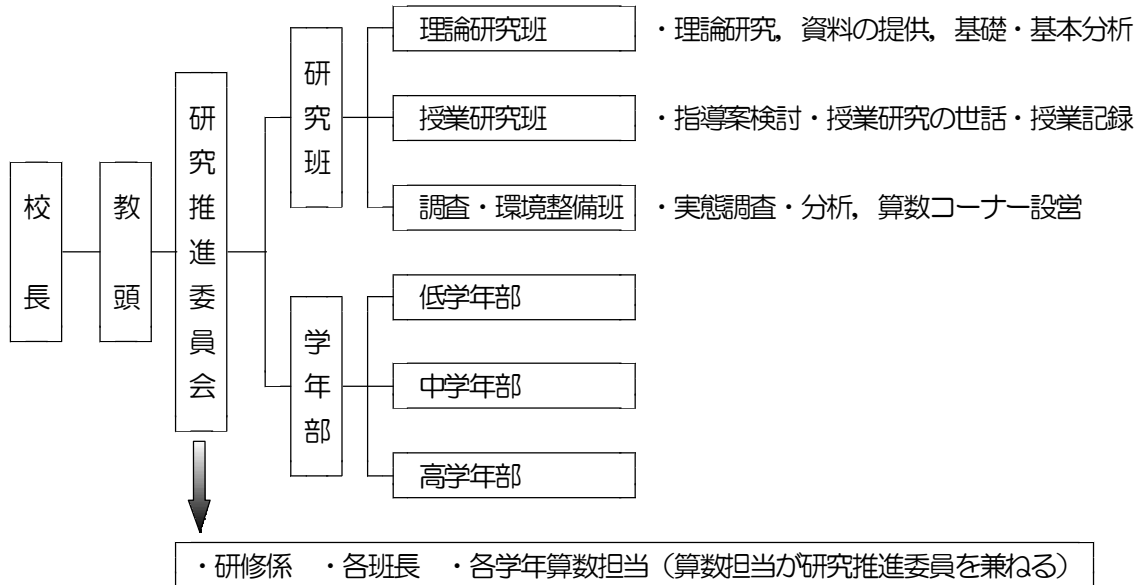
来年度より2学級の学年が増えることが明らかになっている。専科の先生を加えても3名で動く学年が多くなり、今後も学級減の状況は続くと考えられる。

以上の理由から研究組織の見直しをし、以下の進め方で研究を行うことを提案する。

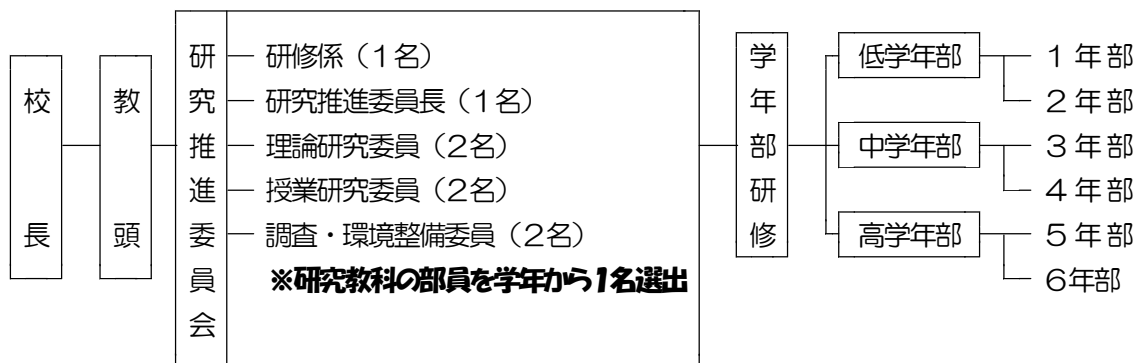


2 新たな研究組織(案)

(1) 平成18年度までの研究組織図



(2) 新しい研究組織図(案)



(3) 各組織の役割(案)

推進委員会	<p>◆校内研究を中心に方向性や内容を検討し、学年部に提案する機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに研究推進委員長を置き、研修係と調整し校内研究を進める。 ・推進委員会の中に、理論研究委員、授業研究委員、調査・環境整備委員を置く。 ・各学年より1名研究推進委員を選出する。(研究教科部員が兼ねる) ・月2回程度、毎週木曜日を原則とし、研究推進委員会を持つ。
-------	--

学年部研修	<p>◆研究推進委員会の提案を受けて、実践を行い、検証する場(研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて学年部や、学年別の研修を行う。 ・実践を中心とし、課題や成果を積み上げる。
-------	---

3 提案通りの組織で進んだ場合のメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">・ 推進委員会からの提案が学年に下りてくるため、時間的なロスが少なく、提案内容が伝わりやすい。そのことで、共通理解が深まり研究が活性化する。・ これまでの班別研修の時間が空く。・ 学年で取り組むことが多くなり、密度の濃い研修が期待できる。・ させられる研修ではなく、自分たちで作り上げる研修の形に近づく。	<ul style="list-style-type: none">・ 推進委員会の回数が若干増える。・ 班活動の内容は学年で分担して行うことになる。・ 推進委員の役割が大きく、学年の取り組みをリードする必要がある。

4 研究授業運営について

これまで授業研究を進めていた授業研究班の仕事は、研究授業を行う学年や学年部で分担して対応できると考える。授業を作り上げた学年（部）で授業研究を進めることにより焦点化した授業研究が進むと考える。